

玉ちやんの

スナックの 酔客伝



玉袋筋太郎（たまごぢろ・すしたろう） お笑い芸人、1967年6月22日生まれ。東京都新宿区出身。86年にビートたけしに弟子入り。TBSラジオ「たまむすび」（金曜）、TOKYO MX「バラいろダンディ」に出演。イ（火曜）にレギュラー出演中。2013年から一般社団法人全日本スナック連盟会長。著書に「スナックあるある この素晴らしき魘魅魘の世界」（講談社）、「スナックの歩き方」（イースト新書）など。

6月に入りました。平成が終わりと令和になって、本当にアツという間に6月なのです。夕刊フジ読者の先輩方なら分かってくれるであろう「アツ」という間だよなあ……という時間の流れの速さ。小学生の頃はそんなことを思わなかったのに、齢を重ねれば重ねる程に「光陰矢の如し」を痛感するのです。

われわれの年代に突入すると、昨日の晩に何を食べたか忘れてしまいがちです。下手すればその日の昼飯のことも忘れてしまつたのですから、時の流れの速さの秘密は、そんな加齢による記憶力の低下が時間という記憶をスリッパさせたために起きる現象なのかもしれません。

5月には2つの過去の悲しい別れの記憶を呼び戻す日がありました。義父と父の命日です。義父は7回忌、父は17回忌でした。本当に、アツとい



オヤジに献杯！

オヤジの死も「アツ」という間に時が流れて……

戻り義父の亡きがらと対面し、告別式も出れず、また地方に向かいロケをしていました。家族からは「祐ちゃん（本名）、お父さんは祐ちゃんの仕事で忙しいことをきくと喜んでくれてるよ」と励まされ涙しました。

そして17回忌の父です。父は私が35歳の時に自ら命を絶ちました。私の仕事も順調になってきた頃合いでしたから、父の死の2日前に会った時に「お父さん、これから親子で楽しくやろうよ！ 親孝行しちゃうぞ！」が最後の会話になってしまったので、猛烈な喪失感で目の前が真っ暗になりました。

誰しも死から逃げることはできない、しかし、自ら死を選んでしまった父。自殺は残された家族を「なぜ救うことができなかったんだ」とや「自分たちが死に追いやってしまったんだではないか？」という精神面における大きな負のお土産を残していくのです。その負の土産を抱えながら生きていくしかありません。

新幹線の車中、妻からきれいなお墓の写真が送られてきました。「オヤジ、17回忌も出てこないバカ息子でごめんね」の念から涙があふれてきました。

その日はスナックのロケでした。父の17回忌の日のロケです。「おい、オヤジ、息子のオレは死んでしまったオヤジの分まで飲んでるからな！」と心に決めてスナックを5軒めぐると、時の過ぎゆくまま臨んだのでした。